

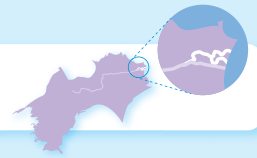
吉野川水系 旧吉野川・今切川 洪水浸水想定区域図



国土交通省四国地方整備局
徳島河川国道事務所

1

洪水浸水想定区域図の目的



- 河川整備の着実な進捗により、かつてのような河川の氾濫の頻度は減少していますが、都市化の進展に伴い平野部では人口及び資産が集積しており、一度氾濫が発生して時は被害が甚大なものになるおそれがあります。
- また、近年、地球温暖化などによるゲリラ豪雨の発生頻度が高まっており、これまでよりも危険性は高まっていると言えます。
- 平時より水害リスクを認識したうえで、氾濫時の危険個所についての正確な情報を知っていただくことが重要です。合わせて円滑かつ迅速な避難を確保し、**洪水による被害の軽減を図るために、氾濫を想定した区域を示すものです。**

多発する洪水被害

- 平成27年9月には利根川水系鬼怒川での堤防決壊が発生



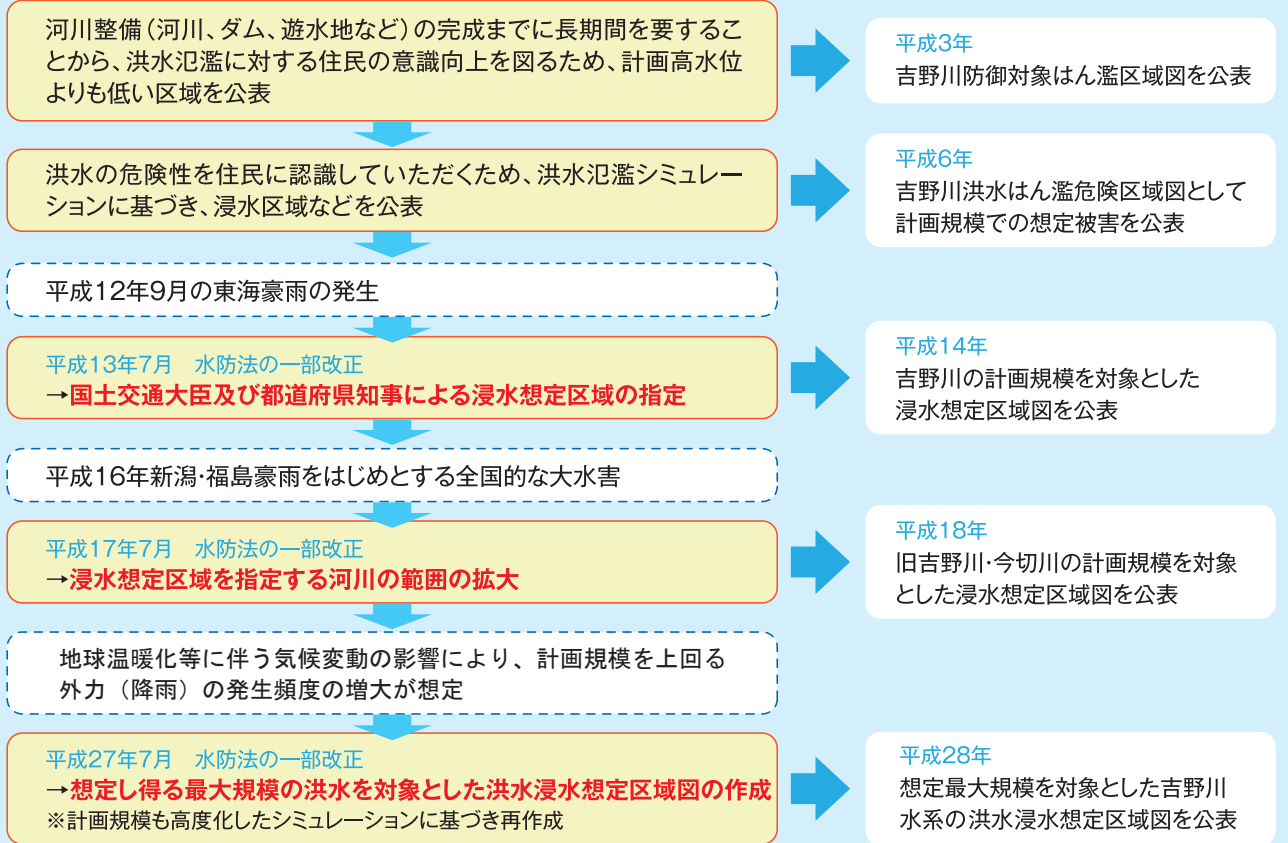
吉野川での浸水被害

- 昭和51年9月台風17号



- 平成16年10月台風23号

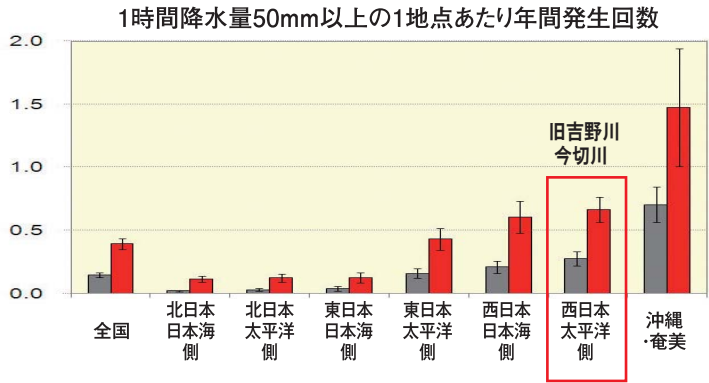




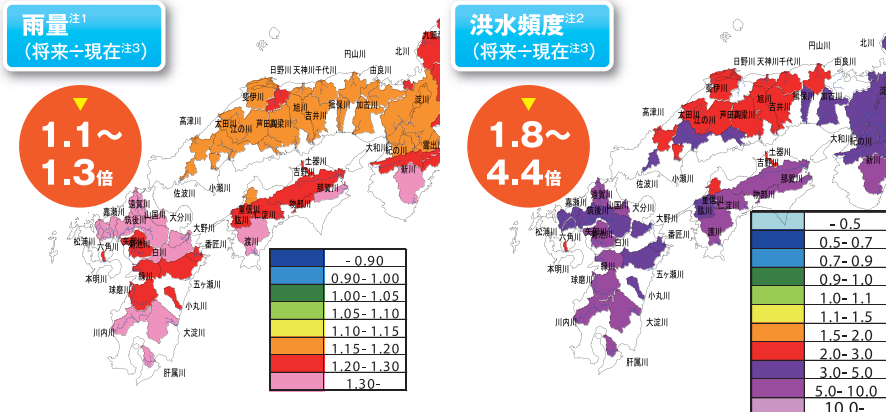
日本における地球温暖化による予測

- 日本の平均気温は今後100年間で2.5~3.5℃上昇する。
- 短時間強雨の発生回数が増加する。

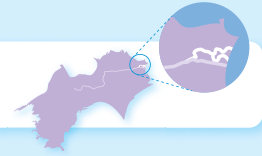
出典:文部科学省・気象庁・環境省
「日本の気候変動とその影響」(2012年度版)



- 温暖化により、河川の基本高水のピーク流量を超える洪水の発生頻度が、今世紀末には現在の最大4.4倍にまで増加するおそれがある。



※SRES A1Bシナリオを適用した4つのモデルの予測値の幅を示したもの
※図の色分けは4モデルのうちRCM5(後期)モデルで予測した結果。
注1:全国の1級水系における年最大流域平均雨量の変化率の中央値
注2:基本高水ピーク流量以上の洪水が発生する年超過確率の変化率の中央値
注3:現在(1979~2003)、将来(2075~2099)の25年平均
出典:国土技術政策総合研究所 研究資料 <http://www.nilim.go.jp/lab/kikou-site/index.htm>



洪水浸水想定区域図とは、洪水により堤防から水があふれたり、堤防が決壊した場合に、浸水が想定される区域を示したものです。

① 洪水と堤防決壊の想定

- 四国南部地域（高知県・徳島県）で過去に発生した最大の降雨が、流域内で降ると想定し、それによる洪水の流量を想定します。
- 洪水の流量が堤防の能力を超える箇所などを決壊する想定箇所として設定します。

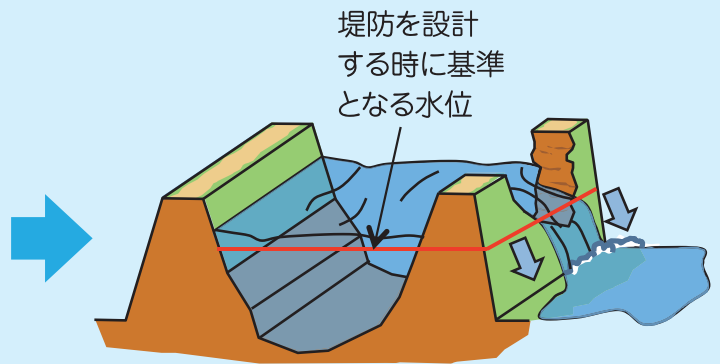
想定最大規模の降雨により河川が増水



旧吉野川・今切川の想定最大規模降雨
24時間総雨量1,135mm

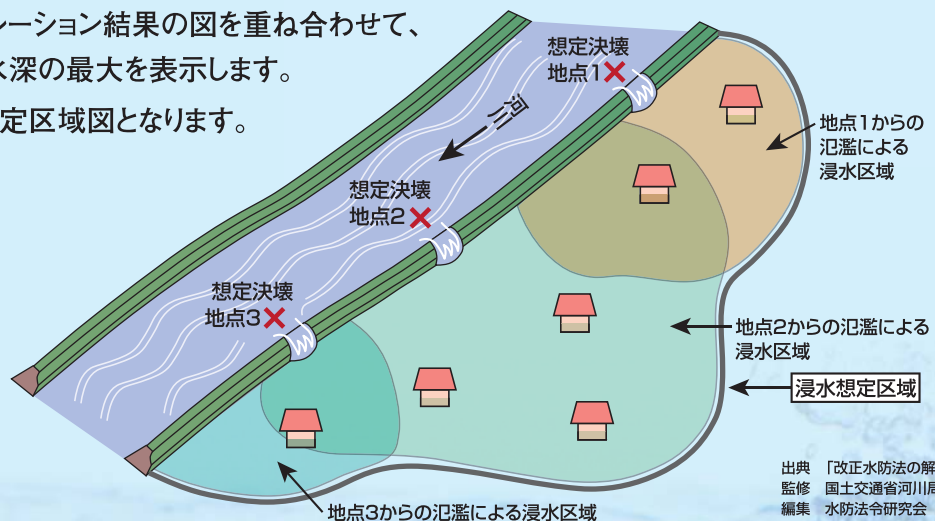
② 堤防決壊による氾濫の想定

- 堤防や護岸などの設計において基本となる水位があります。
- この水位を上回る洪水が発生した場合は、堤防が危険な状態になります。
- 洪水浸水想定区域図では、このような場所を決壊する想定箇所として位置づけます。



③ 氾濫想定を重ね合わせ

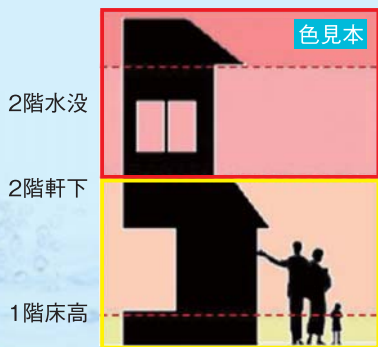
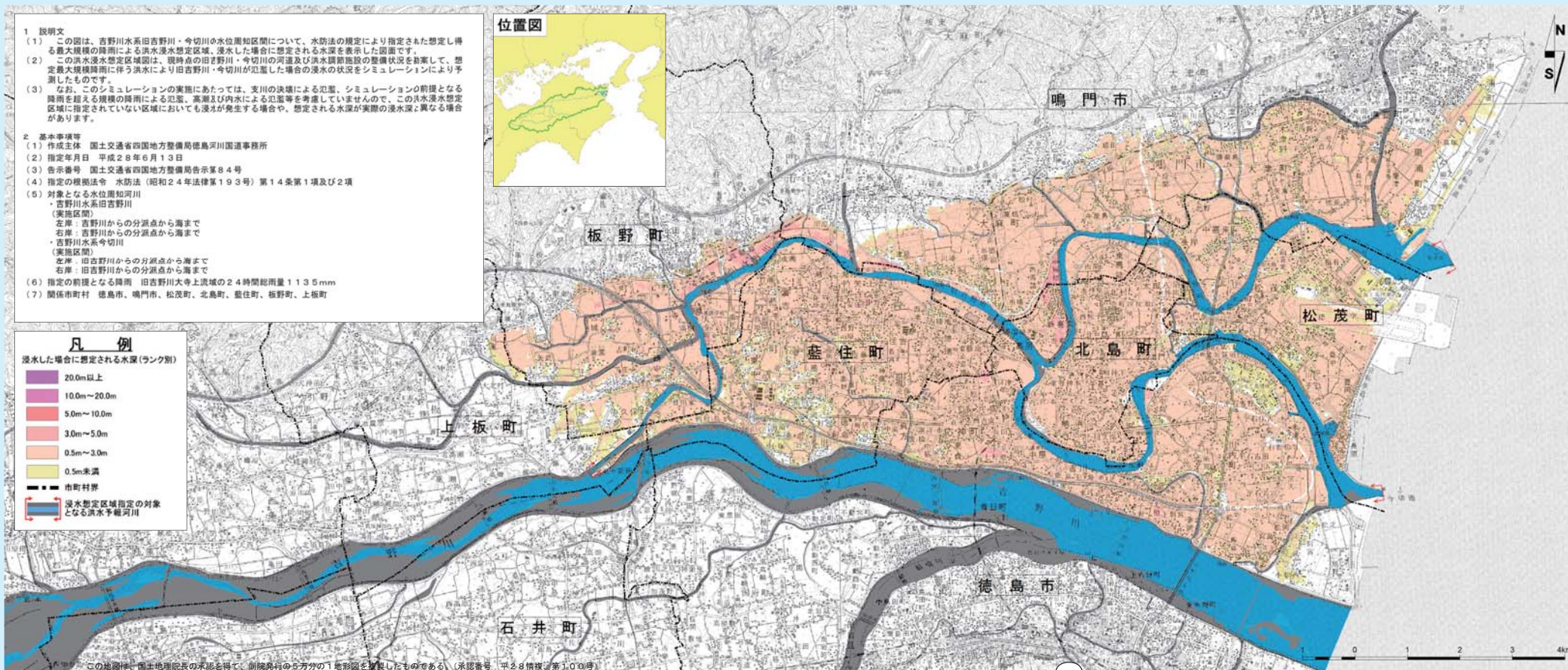
- 決壊する想定箇所で堤防が決壊した場合の氾濫範囲と浸水深などをシミュレーションにより求めます。
- シミュレーションは、決壊する想定箇所全てで実施します。
- 全ての氾濫シミュレーション結果の図を重ね合わせて、浸水区域及び浸水深の最大を表示します。
- これが洪水浸水想定区域図となります。



4 吉野川水系旧吉野川・今切川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



- この図は、国が管理する旧吉野川・今切川の区間において、想定最大規模の降雨(24時間総雨量1,135mm)により堤防が決壊した場合の氾濫状況をシミュレーションした結果を示したものです。
- この図は、旧吉野川や徳島県が管理する河川の氾濫を考慮しておらず、大雨によって住宅地側にたまる内水*の影響を考慮していませんが、想定最大規模の洪水が発生した場合の浸水状況を概ね表しています。

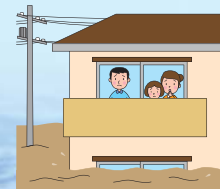


- 3.0mを超える浸水が発生する可能性のある地域では、最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立ち退き避難が必要です。
- 床上浸水または床下浸水が想定されることから、立ち退き避難が望ましいです。
- ただし、浸水時に想定される状況を踏まえ自らの判断により屋内安全確保でも構いません。

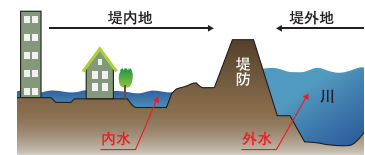
安全なうちに、避難所への避難を行ってください。

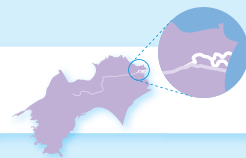


頑丈な建物の2階以上へ避難することが有効な場合もあります。



※内水とは
洪水時に本川の水位が支川の水位より高くなると、本川の水が逆流するのを防ぐために排水樋門等のゲートを閉めます。このため支川の流水は本川に排水出来なくなり、堤防の居住地側で氾濫が生じる場合があります。このような現象を内水氾濫といいます。





防災情報の伝達

「避難に関する情報」には、次の3つがあります。発令前でも、身の危険を感じたら、自主的に避難するようにしましょう。

避難に時間のかかる方とその避難を支援する方は避難を開始して下さい!

避難準備

・高齢者等避難開始

お年寄りの方や小さな子供がいらっしゃる方など、避難に時間のかかる方と、その避難を支援する方は、避難を開始して下さい。

速やかに避難を開始して下さい!

避難勧告

速やかに避難を開始して下さい。
外が危険な場合は、屋内の高いところに避難して下さい。

緊急に避難して下さい!

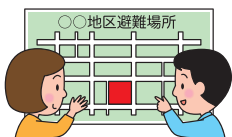
避難指示(緊急)

緊急に避難して下さい。
外が危険な場合は、屋内の高いところに緊急に避難して下さい。

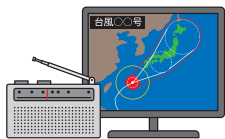
避難時の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について家族で話し合っておきましょう。

あらかじめ安全な避難路の確認を



正確な情報収集と早めの行動を



非常持出品の事前準備を



動きやすい格好、2人以上での避難を



長ぐつは水が入るとかえって危険!

お年寄りなどの避難に協力を



地下は浸水すると一気に水が流れ込みます



車での避難は控えて



浸水時に避難する時は用水路や側溝、マンホールにご注意を



このパンフレットで紹介している吉野川水系旧吉野川・今切川洪水浸水想定区域図は次のホームページでも見ることができます。

http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/bousai/sinsui/top_index.html

この件に関するお問い合わせは下記まで



国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 河川調査課

TEL.088-654-2211 FAX.088-654-9613

〒770-8554 徳島市上吉野町3丁目35